

<無痛分娩(硬膜外麻酔併用分娩)を希望される方へ>

2023/06/06 更新

当院では2022年12月1日より、希望の**予約制の無痛分娩(以下計画無痛)**を開始し、妊娠39週台の分娩となるように陣痛が来る前に入院、としておりました。

2023年6月1日より、妊婦さんのリスクに応じて**24時間対応の無痛分娩(以下オンデマンド)**の対応を開始しました。**オンデマンドが可能な場合は外来担当の産婦人科医が妊婦さん事に判断します**。オンデマンドでは陣痛が来たら入院し、自然な陣痛で分娩の進行を待ちます。必要な時に、子宮収縮促進剤を使うことがあります。

引き続き、計画無痛も対応しておりますが、各月の予約枠の関係で、ご希望に添えない事もあります。また、患者様によっては予定より早く陣痛が来た場合や、破水した場合、夜間・休日などの時間外には対応できない事があります。

<無痛分娩(硬膜外麻酔併用分娩)とは>

無痛分娩とは、麻酔薬を使い、陣痛の痛みを和らげ出産する方法です。当院では、**リスクの高い方は計画無痛となり麻酔科医が、リスクの低い方は計画無痛またはオンデマンドのどちらかを選択して産婦人科医が麻酔の準備**をします。当院の無痛分娩は、背中からチューブ(硬膜外カテーテル)を入れて麻酔薬を注入する硬膜外麻酔という最も一般的な方法で行っています。なお、帝王切開術の頻度は自然分娩と差はないと言われてしています。

＜当院の無痛分娩について＞

ご希望の方は妊娠32週までに**自費検査(2万円)**を受けて頂き、リスクに応じて**当科外来**か**麻酔科外来**で実施可能かを判断します。説明をお聞きの上、納得頂けましたら同意書提出と共に**無痛分娩管理料(12万円)の事前納入**をしていただきます。尚、投薬の有無にかかわらず、**硬膜外カテーテルを挿入した時点で返金不可**としております。また、入院しても有効な陣痛が得られず分娩に至らない事、医学的適応で吸引分娩・帝王切開術となる事があります。その場合も無痛分娩管理料が発生します。

〈分娩誘発とは〉

計画無痛の場合、陣痛が来る前に入院する為、子宮の出口である子宮口を広く、軟らかくする為の「子宮頸管熟化処置」を数日かけて行い、十分広がったら「子宮収縮促進剤」を点滴で投与して陣痛が来るようにします。これも数日かかることがあります。処置中は、分娩監視装置で経過をみます。上記の処置によって帝王切開術の頻度が増えることはないと言われています。

詳細は外来担当医へご質問ください。また、一般的なご質問については、下記のHPをご参照ください。

[『無痛分娩のQ&A』](#) [日本産科麻酔学会 HP](#)

桑名市総合医療センター 産婦人科診療部長